

道德の「教科化」に向けて

今回は、平成30年度から使われる小学校の教材についてご紹介します。

1 教科書「小学道德 はばたこう明日へ」(教育出版)



名古屋市では、「小学道德 はばたこう明日へ」(教育出版：発行)が使われます。A B判サイズの教科書で、定番教材の他に民話や絵本や偉人など、様々なジャンルから、教材が選ばれています。愛知県や名古屋市にゆかりのある教材としては、「杉原千畝」や「豊田喜一郎」、「徳川家康」などの人物が取り上げられています。

また、各教材ごとに「学びの手引き」が配置されています。学級の実態にあわせて授業ができるように、「教材本文に対する問い」「道徳的価値に対する問い」「今後の行動への示唆」等、複数の発問が価値理解の深化をねらって構成されています。発問の項目を取捨選択することによって、学級の実態に応じた授業を行うことができます。

学びの手引き

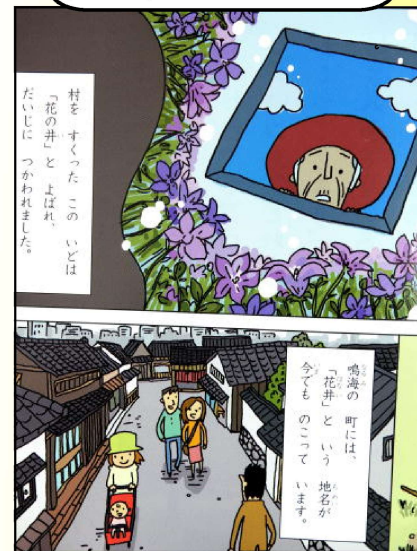
- ヒキガエルに石を投げているとき、アドルフたちはどんな気持ちだったでしょう。
- ヒキガエルが助かったとき、アドルフたちはどんな気持ちだったでしょう。
- このお話のよいところを話し合おう。
- アドルフたちがしたこと、ロバがしたこと、ちがいはどこでしょう。
- ロバがヒキガエルを助けたとき、ロバやヒキガエルはどんな気持ちだったでしょう。ロバとヒキガエルになってやってみよう。
- ロバの行動から学んだことはなんだろう。自分の考えをまとめてみよう。

2 副読本「明るい心」(愛知県教育振興会)

名古屋市の多くの学校で使われていた副読本「明るい心」(愛知県教育振興会)は、平成30年度より、郷土の偉人や出来事を中心とした内容の資料が各学年12種類掲載されます。

1ページ全面に迫力のある写真が載っていたり、親しみやすい絵柄が使われていたりします。

緑区鳴海町の「花の井」



2年「花のさいたいど」

新小学校学習指導要領解説には、「各地域に根ざした地域教材」は、「児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるので、地域教材の開発や活用に努めることが望ましい」と書かれています。教科書と併せて活用することで効果的な指導につながります。

豊橋市の「手筒花火」



4年「花火にかける思い」

子どもたちの心に残る道德の授業を目指して=授業づくり研究部会 授業研究 =

9月20日(水)に、中川区昭和橋小学校の5年3組の脇田健太郎先生の学級において、子どもたちの心に残るようにするために、様々な工夫をした道德の授業研究が行われました。資料は、「一まいの色紙」[明るい心5年(県教振)]です。授業では、弘子に対し否定的に見ていた学級のみんなの気持ちが、変わっていったきっかけを考え、友達の在り方について話し合うことで、より良い人間関係を築こうとする気持ちを高められるようにしました。授業には、導入、展開、終末それぞれに誰でもすぐにできる様々な工夫があり、子どもたちも夢中になって考えていました。

詳しい内容は、来年1月23日(火)に行われる研究発表会で発表します。是非、ご参加ください。



道德Q&A ~実際にお尋ねがあった質問から~

Q. 学習のめあては必要ですか。また、どのタイミングで提示するとよいですか。
A. 子どもが主体的に授業に取り組むためには、子どもに「何について考えればよいのか」をつかませることが大切です。導入で、授業への関心を高めるとともに、めあてを示すことは、必要だと思います。

Q. 挙手をしていない児童を指名してもいいですか。
A. 子どものつぶやきやワークシートの記入の様子から、挙手をしていなくても、児童の考えをつかむことができます。話し合いの内容が、より深められると判断した場合は、意図的に指名をして、発言を促してもよいと思います。

Q. なかまなビジョンによって、今後の道徳はどう変わりますか。
A. なかまなビジョンで示された学習過程のモデルは、仲間との対話を大切にしてきたこれまでの道徳の授業の流れと変わりません。道徳でも、めあてに向かって子どもが主体的に取り組めるように、「なかまなビジョン」を活用して授業づくりをすることが大切です。